

令和7年度実績の評価に係るフォローアップ(林政分野)

令和7年度実績で達成度合いが「C」となった測定指標については、以下のとおり要因分析を実施。

【政策分野Ⅱ①】

資料3-1
該当ページ

測定指標	(6)－①－ア 林道等の整備量	Ⅱ①-10
要因分析	測定指標の達成に向け、林道整備事業等による林道等の開設に対する支援を行い、効率的な施業の実施や木材の安定供給のため路網の整備を進めているが、労務費及び資材費の高騰や人件費の上昇により、整備単価が上昇しており、整備量が目標値を下回り、達成度合いが48.6%となった。 新たな森林・林業基本計画においては、KPI「路網の整備により効率的な利用が可能となる森林の資源量」(7億㎡(令和5年)→20億㎡(令和12年))を設定しており、効率的な路網整備の推進に向けて取り組んでいく。	

【政策分野Ⅱ②】

測定指標	(2)－②－ア 認定森林施業プランナーの現役人数	Ⅱ②-5
要因分析	認定森林施業プランナーについては、経験年数の少ない受験者の増加等により合格率が年々低下していることを踏まえ、森林施業プランナー育成に係る研修について有識者を交えてカリキュラム内容の分析や更新を行ったが、受験者は若干増加したものの合格率が約4割に止まったため、令和7年度実績値は2,442人となり、達成度合いも41.3%に止まった。 引き続き森林所有者に対して施業の働きかけ等を行い林業経営体への集積・集約化を図る森林施業プランナーについて、令和12年に3,500名という目標に向けて、予算を活用し、森林経営管理法に基づく集約化構想への対応の追加など研修カリキュラムの充実を図るとともに、認定森林施業プランナーの活動の周知等による受験者の掘り起こし等の取り組みを進めていく。	
測定指標	(2)－②－イ 認定森林経営プランナーの現役人数	Ⅱ②-5
要因分析	認定森林経営プランナーについては、年々受講者数が減少していることを踏まえ、受講者の候補である森林施業プランナー等に対し、経営スキルの向上が経営体の収益向上に有効であることや、認定後には森林経営プランナーのスキルアップのための研修の機会や森林経営プランナー同士の情報交換の場を提供していること等のメリットの周知をすることにより、受講者の掘り起こしに努めたが、林業経営体の管理職層や経営層に浸透しきれなかったため、受講者数が32人に止まり、令和7年度実績値が222人となり、達成度合いも44.4%に止まった。 引き続き林業経営体の収益力の向上に取り組む森林経営プランナーの育成については、予算を活用し、森林経営プランナーの候補となる森林施業プランナーの増加を図るとともに、集積・集約化による経営能力の向上に資する研修カリキュラムの充実の検討などに取り組んでいく。	